

<金標準、トランプ関税 10%の思惑から CME の金在庫 33%増・・・>



(出所：オアシス)

生産者物価指数、消費者物価指数の発表で年内2回の利下げ確率は53%まで高まりを見せ、またウォラー理事は翌日のCNBCに対し「インフレデータが良好であれば、2025年前半に再び金利を引き下げる可能性がある」と述べるなどハト派的なコメントを発している。

特に20日に第47代米国大統領に就任するトランプ氏は、対中国で関税60%を公言し、貴金属にも10%の関税を掛けると発言し、ロンドン市場の現物価格とNY市場の先物価格との差が乖離し、関税プレミアムを受けCOMEX承認倉庫の金在庫は過去6週間で33%急増の2022年11月以来の高水準となる2362万オンス（732.2トン）に押し上げられている。

また国内の民間企業の年間金生産が65トンを誇るカザフスタン中銀は、国内の生産者から購入した金を国際市場で売却すると表明するなど、関税とカザフスタンの要因から高値が抑えられる動きに注意が必要に思える。そのため日米間の金融政策の違いから円高の動きが強まると13200円に向けた値動きに注意が必要になると思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACAが切り下げだし、シグナルは切り上げている。RCIでは短期は下げながら、長期も87%を維持している。そのためオシレーターは基調の転換の予兆を示しており、修正安には注意が必要に思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,655,000 円(2025 年 1 月 20 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 71,280 円(2025 年 1 月 20 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>